

令和 6 年 6 月 15 日現在

機関番号：32663

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2023

課題番号：18K02119

研究課題名(和文) ロバート・オウエンの思想を通じた「相互承認」の場の形成に関する研究

研究課題名(英文) A Study on the Formation of Field for "Mutual Recognition" through the Ideas of Robert Owen

研究代表者

金子 光一 (Kaneko, Koichi)

東洋大学・福祉社会デザイン学部・教授

研究者番号：30255153

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：ロバート・オウエンの思想を通じた「相互承認」の場の形成に関する研究を通じて、オウエンが、「相互承認」の場の構築には、市民としての責務を重視し、共通の価値・規範を身につけた市民の力と、社会環境が不可欠であることを見出し、新たな価値を創造しようとしたことを解明した。また、オウエンの思想には、多様性の間の対話を重視して、そこで暮らす一人ひとりの福祉と利益を増大させるための「市民的統合」モデルの原型が含まれており、「道徳的徳性」を身につけた構成員による人倫的な協同社会が、すべての人に利益を与え、幸福にするための条件となる「相互承認」の場として機能を有していたことを明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現代社会において学術的に求められるのは、単に目的に対する手段として「役に立つ」研究(目的遂行的な有用性)だけではなく、目的・価値を創造することにおいて「役に立つ」研究(価値創造的な有用性)である。そして、「No one will be left behind(誰一人、取り残さない)」社会を実現するためには、個人の利益のみを追求する価値ではなく、「相互に認め合い、つながり合い、支え合う」ための新たな価値を創造することが必要である。そのために本研究は、18世紀末から新たな価値を創造したロバート・オウエンに着目し、「相互承認」の場に必要なる思想を明らかにした。その社会的意義は大きいと考える。

研究成果の概要(英文)：Through the study on the formation of a space for "mutual recognition" via the thoughts of Robert Owen, it was elucidated that Owen discovered the construction of a space for "mutual recognition" necessitates citizens who value their civic duties and embody common values and norms, along with a societal environment, both of which are essential for creating new values. Furthermore, Owen's philosophy includes a prototype model for "civic integration" aimed at enhancing the welfare and interests of every individual living there by emphasizing dialogue among diversities. It was revealed that a humane cooperative society, constituted by members endowed with "moral virtues," functioned as a space for "mutual recognition" that serves as a condition for providing benefits and happiness to all individuals.

研究分野：社会福祉学

キーワード：相互承認 ロバート・オウエン 価値 相互性 福祉思想 思想史

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初、日本では「地域共生社会実現」に向けた大きな動きが始まっていた。具体的には、厚生労働省が2016年7月に『我が事・丸ごと』地域共生社会実現本部についてで示した「地域共生社会」を具体化する方法を模索していた。そしてその前提として、地域社会に暮らす住民の「相互義務」と「権利付与」の関係を明らかにしなければならなかった。しかしながら、そのような関係性の議論を十分に踏まえる余裕もなく施策を展開しなければならない状況であったため、社会的紐帯の弱い人たちは、福祉制度や支援ネットワークからこぼれ、「相互承認」の場を見つけられず、孤立したり、引きこもってしまっていた。「相互承認」の場の構築には、市民としての責務を重視し、共通の価値・規範を身につけた住民の力と、すべての住民の人権が保障される社会環境が不可欠である。そして、地域社会における「相互承認」の場の形成に求められる「相互義務」と「権利付与」を明らかにするためには、歴史研究を通じて、その根本的な思想に立ち返る必要があった。そのためにロバート・オウエン (Robert Owen) の「相互承認」の場の形成に関する分析を行うこととした。

2. 研究の目的

地域社会で暮らす住民全体を一つの「団体」と捉え、住民一人ひとりに地域に対する帰属意識をこれまで以上に与え、同時に、コーポレーション (co-operation) としての地域社会に求められる方策を探る上で、オウエンの思想の検証は重要な意味をもつものである。そこで、オウエンの現代的有効性に着目し、地域福祉が抱える問題の解明の糸口を探究することを本研究の目的とした。

3. 研究の方法

研究方法は、オウエン自身が執筆した出版物、講演の記録等の第一次史資料、日本および欧州諸国 (主にイギリス) の政府文書 (報告書、審議会議事録等)、学術研究書・論文等を収集し、分析を進めた。

4. 研究成果

現代社会において学術的に求められるのは、単に目的に対する手段として「役に立つ」研究 (目的遂行的な有用性) だけではなく、目的・価値を創造することにおいて「役に立つ」研究 (価値創造的な有用性) である。そして、「No one will be left behind (誰一人、取り残さない)」社会を実現するためには、個人の利益のみを追求する価値ではなく、「相互に認め合い、つながり合い、支え合う」ための新たな価値を創造することが必要である。そのために、本研究は、18世紀末から新たな価値を創造したロバート・オウエンに着目し、「相互承認」の場に必要となる思想を明らかにした。

(1) 参加型支援に求められる思想に関する研究成果

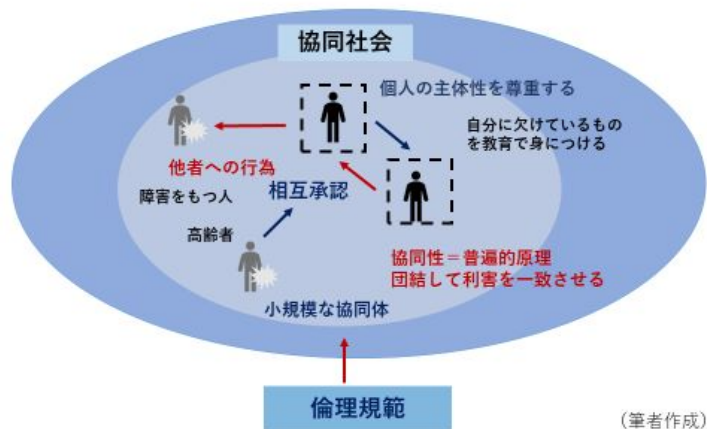
まず、相互義務の背景にある福祉思想を、アダム・スミス (Adam Smith)、J.S.ミル (John Stuart Mill)、オウエンの思想から検証し、明らかにした。具体的には、スミスの「義務の感覚」(sense of duty)、ミルの「尊厳の感覚」(sense of dignity)、オウエンの「結束と相互協力の思想」(idea of 'unity and mutual co-operation') から導かれる基盤思想とそれぞれの特徴 (「関係性」「平等性」「協同性」) が、今後参加型支援を支える思想を検討する際に求められる理論的枠組みとなり得ることを立証した。(金子 2019)

(2) スミスとヘーゲルの比較を通じたオウエンの「相互承認」の場の思想に関する研究成果

次に、オウエンの思想をスミスの「良心論」とヘーゲルの「承認論」を用いて検証し、考察した結果、スミスの公平な観察者と当事者の「立場の交換」から生まれる自発的行為としての良心とそこから引き出される他者との共同性と、オウエンの自分の判断で良心に基づいて行動することの関連性が明らかにすることができた。そしてその根底に多様な人々を受容する考え方がみられた。

また、ヘーゲルの個別性を優先させる「行為的良心」と普遍性に固執する「評価的良心」の一面性を克服することが「相互承認」であり、それが展開されるのが人倫的共同体であるという考えから、オウエンの協同社会を検証した。オウエンは、個人の主体性と良心の自由を尊重しながら、皆が団結して利害を一致させることを普遍的なものとして位置づけていた。そして自分に欠けているものを教育で身につけ、そのプロセスで相互承認が形成され、他者との関係を構築し、普遍的原理を倫理規範によって支える協同社会を構想していた。そのことをイメージ図で示したのが、下図である。(金子 2020)

(図)「相互承認」の場としての協同社会を目指したオウエンの思想



(3) オウエンの思想を通じた「相互承認」の場の形成に関する研究成果

最後に、オウエンが、「相互承認」の場の構築には、市民としての責務を重視し、共通の価値・規範を身につけた市民の力と、社会環境が不可欠であることを見出し、新たな価値を創造しようとしたことを解明した。また、オウエンの思想には、多様性の間の対話を重視して、そこで暮らす一人ひとりの福祉と利益を増大させるための「市民的統合」モデルの原型が含まれており、「道徳的徳性」を身につけた構成員による人倫的な協同社会が、すべての人に利益を与え、幸福にするための条件となる「相互承認」の場として機能を有していたことを明らかにすることができた。(金子 2021, 2024)

<文献>

金子光一、参加型支援に求められる思想に関する一考察 —アダム・スミス、ミル、オウエンの思想を通じて—、福祉社会開発研究(東洋大学福祉社会開発研究センター)、11号、2019、81-89

金子光一、ロバート・オウエンの「相互承認」の場に関する研究、社会事業史研究、査読有、58号、2020、9-22

金子光一、相互に認め合う社会の構築に関する一考察 オウエンの思想を基盤として、福祉社会開発研究(東洋大学福祉社会開発研究センター)、13号、2021、17-25

金子光一、ロバート・オウエンの思想を通じた「相互承認」の場の形成に関する研究、福祉社会開発研究(東洋大学福祉社会開発研究センター)、16号、2024、47-54

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 金子光一	4. 巻 16
2. 論文標題 ロバート・オウエンの思想を通じた「相互承認」の場の形成に関する研究	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 福祉社会開発研究	6. 最初と最後の頁 47-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子光一	4. 巻 1
2. 論文標題 「福祉思想史」研究に関する一考察 「新たな価値」に基づいた社会を変革する思想の歴史に着目して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 社会事業史学会創立50周年記念論文集 戦後社会福祉の歴史研究と方法 継承・展開・創造	6. 最初と最後の頁 59-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本真実	4. 巻 2020
2. 論文標題 子ども・子育て支援制度下での保育者の「社会的責任」について ~イギリス「社会的共同親業」(Corporate Parenting)の概念を参考に~	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 保育子ども研究	6. 最初と最後の頁 17-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子光一	4. 巻 60
2. 論文標題 社会福祉史研究に関する一見解 「価値」の変遷を踏まえた研究の必要性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会事業史研究	6. 最初と最後の頁 6-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子光一	4. 巻 62-3
2. 論文標題 文献紹介『吉田久一とその時代：仏教史と社会事業史の探求』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会福祉学	6. 最初と最後の頁 201
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子光一	4. 巻 13
2. 論文標題 相互に認め合う社会の構築に関する一考察 オウエンの思想を基盤として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 福祉社会開発研究	6. 最初と最後の頁 17-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金子光一	4. 巻 57
2. 論文標題 口パート・オウエンの「相互承認」の場に関する思想	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 社会事業史研究	6. 最初と最後の頁 9-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子光一	4. 巻 19
2. 論文標題 社会福祉の新たな展開 ICTやAI等を活用した福祉サービスの可能性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『世界の社会福祉年鑑 2019』	6. 最初と最後の頁 3-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子光一	4. 巻 11
2. 論文標題 参加型支援に求められる思想に関する一考察 スミス、ミル、オウエンの思想を通じて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 福祉社会開発研究	6. 最初と最後の頁 81-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 金子光一
2. 発表標題 ロバート・オウエンの思想を通じた「相互承認」の場の形成に関する研究
3. 学会等名 日本社会福祉学会第71回秋季大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山本真実、塩崎美穂、山下久美
2. 発表標題 社会資源としての公的保育 東洋英和の保育思想に学ぶ
3. 学会等名 日本保育学会第76回全国大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 金子光一
2. 発表標題 A Historical Study of Thought on the Formation of Places for Mutual Recognition
3. 学会等名 2022 East Asia Social Welfare Forum (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 金子光一
2. 発表標題 相互に認め合う社会の構築～新たな価値の創造に向けて
3. 学会等名 東洋大学福祉社会開発研究センター SPA1公開研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 金子光一
2. 発表標題 理論研究の立場から『オウエン』の思想を基盤として
3. 学会等名 東洋大学福祉社会開発研究センター SPA1総括研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金子光一
2. 発表標題 Robert Owenの「相互承認」の場に関する思想
3. 学会等名 日本社会福祉学会第67回秋季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金子光一
2. 発表標題 日本のICTやAI等を活用した包括的な支援システムの現状と課題
3. 学会等名 中国社会学社会福祉研究専門委員会第11回年次大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 古川孝順（分担執筆：金子光一）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中央法規出版	5. 総ページ数 444
3. 書名 現代社会福祉分析の再構築（第7章：社会福祉の戦後改革）	

1. 著者名 東洋大学福祉社会開発研究センター	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中央法規出版	5. 総ページ数 352
3. 書名 認め合い、支え合う 福祉社会の近未来	

1. 著者名 岩崎 晋也、白澤 政和、和気 純子、金子 光一、木原 活信	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 252
3. 書名 社会福祉の原理と政策	

1. 著者名 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央法規出版	5. 総ページ数 331
3. 書名 社会福祉の原理と政策	

1. 著者名 金子光一他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 旬報社	5. 総ページ数 439
3. 書名 世界の社会福祉年鑑 第20集	

1. 著者名 金子光一・小縮尚文	4. 発行年 2019年
2. 出版社 旬報社	5. 総ページ数 464
3. 書名 世界の社会福祉1 イギリス・アイルランド	

〔産業財産権〕

〔その他〕

東洋大学研究者データベース http://ris.toyo.ac.jp/profile/ja.613b5b89418c5cada5654ef33f3b5ce5.html
--

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山本 真実 (YAMAMOTO Mami) (20337695)	東洋英和女学院大学・人間科学部・教授 (32718)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------